

# 請 願 文 書 表

請 願 番 号	第 1 号	請 願 要 旨
受 理 年 月 日	令和8年2月24日	<p><b>【請願趣旨】</b> 自民党と維新の会は、連立政権合意書で日本の「インテリジェンス機能が脆弱(ぜいじゃく)」だとして「スパイ防止法」の制定を急いでおり、国民民主党、参政党はそれぞれ法案を昨年の臨時国会に提出し、制定を狙っている。しかし、法案をつくるべき事実(立法事実)はあるのだろうか。政府は2025年8月、「日本はスパイ天国か」との質問主意書に「日本をスパイ活動が野放しで抑止力が全くない国家であるとは考えていない」との答弁書を閣議決定している。また、国家公務員法、特定秘密保護法、経済安保秘密保護法など、機密情報の漏えいを防止する法制度は何重にも存在し、実際に処罰も行われている。新たな法律を必要とする立法事実はない。</p> <p>ところが、検討されている新法には「国家情報局の創設」「適正評価制度(セキュリティ・クリアランス)の拡大」「外国勢力によるロビー活動の監視強化」などが含まれている。これは、政府による市民への監視機能を飛躍的に拡大させ、思想信条の自由、プライバシー権を侵害するものである。一方で、政府にとって都合の悪い情報が隠され、その情報を明らかにしようとするものが「スパイだ」として攻撃される危険がある。これは、民主主義の基盤である「知る権利」や報道の自由を否定するものである。</p> <p>共謀罪法、特定秘密保護法、経済安保秘密保護法など一連の治安立法が制定されてきた中で、「スパイ防止法」は監視社会の総仕上げである。新法の真の目的は、国家が情報をコントロールし、アメリカと情報を共有して一体となって戦争をするための体制をつくることにある。</p> <p>以上の趣旨から、下記の事項が実現するよう請願する。</p>
件 名	「スパイ防止法」に反対する意見書の提出を求めることについて	
請 願 者 所 住 氏 名		
紹 介 議 員	中山 和 行 節 木 三千代	
付 託 委 員 会	総務・企画・公室常任委員会	
審 査 結 果		

## 【請願項目】

一、基本的人権を侵害し、立憲主義、国民主権、平和主義を否定する「スパイ防止法」を国会に提出、制定しないよう求める意見書を、国会および政府に提出すること。

# 請 願 文 書 表

請 願 番 号	第 2 号	請 願 要 旨
受 理 年 月 日	令和8年2月24日	<p><b>【請願趣旨】</b>            東京電力福島第一原発事故から15年目を迎えたが、帰還困難区域はいまだ解除されず、5万人もの人たちが故郷に戻れないままにいるなど、事故による重大な被害が続いている。そうした中政府は、これまで原発依存度の低減を掲げていたエネルギー基本計画を転換し、原発の再稼働推進、新增設方針を打ち出した。福島復興が道半ばで原子力緊急事態宣言が継続されている状況で、原発の再稼働を推進することは、到底許されない。</p> <p>国の原発推進政策を受け、関西電力が美浜原発の新增設方針を表明し、東京電力が先月、柏崎刈羽原発の再稼働を強行した。しかし、日本の電力会社に原発を稼働する能力があるのだろうか。柏崎刈羽原発は再稼働早々にトラブルに見舞われ、原子炉を停止。中部電力の浜岡原発では、耐震偽装が公益通報により発覚し、原子力規制委員会での審査が中断された。安全の確保が何より重要なのに、うそやごまかしが繰り返されている。</p> <p>原発を動かすと発生する核のごみの処分方法は確立されておらず、中間貯蔵施設に放置され、私たちの暮らしと健康が脅かされている。</p> <p>また、地震大国日本で一たび原発事故を起こせば、取り返しのつかない被害が生じることは、福島の現実からみても明らかである。原発事故の責任を認めようとしない政府に、原発の運転期間延長、再稼働、新增設を語る資格はない。</p> <p>そして、建設コストの上昇と、新規制基準の下での対策費、維持費が大きく膨らんでいる今、原発は「安いエネルギー」とは言えず、再生可能エネルギー普及の最大の障壁である。</p> <p>以上の趣旨から、下記について、地方自治法第99条に基づいて、政府への意見書を提出いただくよう請願する。</p> <p><b>【請願項目】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 原発推進政策を撤回し、再エネ、省エネ中心のエネルギー政策に転換すること。</li> <li>2 原発の稼働を停止し、原発の再稼働、新增設は認めないこと。</li> <li>3 原発依存から脱却し、原発ゼロに向けた法整備を行うこと。</li> </ol>
件 名	「原発再稼働反対、原発ゼロを求める意見書」の提出を求めることについて	
請 願 者 所 住 氏 名		
紹 介 議 員	中山 和 行 節 木 三千代	
付 託 委 員 会	総務・企画・公室常任委員会	
審 査 結 果		